

第5学年2組 学級活動(1) 指導案

1. 日時・場所 令和2年10月28日(水) 3校時(10:50~11:35) 5年2組教室

2. 議題 「5年2組のおまつりをしよう」

学級目標

5つのパワーで唯一無2に！！

・笑顔・思いやり・けじめ

・乗り越える・思い出に残す

3. 議題について

(1) 児童の実態

明るく、様々な活動に対して活発に取り組む児童が多い。感染症対策で限られた学校生活の中でも、できることを探しながら生活している。男女分け隔てなく関わることができる児童がほとんどで、自分の考えを素直に話すことができる。しかし、友達の意見と自分の意見が違うことを認められなかったり、全体の前になると意見を言うことができなったりする児童もいる。授業や学級会の中で、友達の考えを大切にすること、自分と違う考えを否定するのではなく、お互いの考えを合わせて新しいものを作ることを大切にしている。また、全員が参加するというところに課題がある。話し合い活動や授業の中で、意見を出すだけでなく、友達の意見に対するうなずきや相槌など、聞くことでも参加する姿勢を作ることを指導している。

今年度から校内研究で特別活動が始まった。新型コロナウイルスの関係で、6月から新年度が始まったこと、話し合い活動の実施を見送ったこともあり、9月に第1回学級会を行った。1年生から4年生までで、児童が司会や記録の役割をしながらの学級会を経験したことのある児童とそうでない児童がいたため、第1回は、オリエンテーションを兼ねて担任が司会グループの全ての役を務めながら、学級会の進め方を確認した。また、議題箱の設置や取り組み方についても説明し、全員が議題提案カードを書き、第2回にはこの中から議題を選ぶことを伝えた。第2回学級会では、議題提案カードの中でどの議題にするかを司会グループと話し合い、「みんなで楽しめる集会をしよう」とした。様々な遊びが出たが、「みんなで遊べる」という話し合いのめあてに立ち返ったり、たくさんの意見を取り入れるためにはどうすればいいかを考えたりしながら合意形成を行うことができた。しかし、全員が学級会に参加しているという意識や態度が見られないこともあった。特定の児童が意見を出し合い、その児童たちで話し合いが進んでいるような場面が多くみられた。友達の意見に対して全体が思考し、考えを深めることや、意見をつなげていくことに課題がみられた。第3回では、「マスコットキャラクターを決めよう」という議題で話し合った。それぞれのキャラクター候補の良さを見つけられるように、全員の手元にキャラクター候補のイラストがある状態で行った。子どもたちが自分で考えたり、近くの人と話し合ったりする時の資料となるようにと配ったが、その資料を見て様々な良さを見つける児童と、落書きをしてしまうような児童もいた。そこで、第4回の「マスコットキャラクターの名前を決めよう」という議題の話し合いで、話し合いのめあてを「全員参加する学級会にしよう」とした。それぞれの参加の仕方を考え、友達の意見を聞き、考えることや、意見を言うことなど、自分なりの参加を明確にして行った。その結果、友達の意見に対する相槌や話を聞く姿勢に変化が見えた。この姿を他教科でも価値づけし、継続できるようにしている。

(2) 議題選定の理由

例年ならば行われていた学校行事がなくなり、子ども達が協力して何かを成し遂げたり、作り上げたりする場面が減ってしまった。そこで議題箱の中から全員で協力して取り組めるものに着目し、舞台のような形でおまつりをしたいという議題を選定した。みんなで何かを計画し、何かを作るような

活動をすることで、楽しみながら、学級目標の「笑顔」や「思い出に残る」パワーを高めたという提案者の思いと、今の子どもたちの現状が重なっていると考え、この議題に選定した。この議題を通して、学級をよりよくするために何が適切かを考え、考えたことを伝えたり友達の意見を聞いたりして、合意形成ができるようにする。そして、様々な制限のある学校生活の中で、自分たちで工夫する力を高めていきたい。

最高学年に向けて、学校全体のことを考えるためのステップとして、まずは自分たちの学級をよくするために、自分ができることは何か、どんなことができるかを考えて話し合える姿や実践できる姿を目指していきたい。

4. 評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間形成を よりよくしようとする態度
みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

5. 研究テーマに迫るための手立て

研究テーマ

自分たちで考え、みんなでよくなる児童の育成

① 「自分たちで考え」の手立て

児童の実態にもあるが、全員が参加する姿勢で臨むことに課題がある。まずは意見を聞く姿勢を日常生活や授業の中で徹底し、友達の意見に対して反応している姿を価値づけする。また、学級の中で提案された議題であること、全員が協力して行うものであることを伝え、話し合う必要感をもたせる。そのために、教室内に議題や話し合いのめあてなどを掲示しておく。学級会当日まで、目に触れるところに議題が大きく飾られていることで、日常の中でも議題について考える機会を増やすようにする。さらに、一人一人が考えをもって、それらの考え出し合いながら深めていくために、事前に学級会シートとして考えを明確にしたものを書く。その学級会シートも、学級会の時に司会グループの指名司会の手元に置いておき、その場で指名するための手立てとする。

② 「みんなでよくなる」の手立て

話し合うこと②で、楽しむための工夫について考える。その中で、ただ活動するだけでなく、自分たちの学級目標に近づくことを意識させる。「自分たちで考え」の手立てと合わせて、みんなで意見を出し合い、実践に向けてそれぞれが役割をもって、取り組めるようにする。さらに、実践後の振り返りでは、学級の中で協働したからこそ、各コーナーが充実し、楽しめたということに気付かせたい。みんなでよくなったという経験から、今後の学級、学校生活に生かしていきたい。

6. 活動の実践

(1) 事前の活動

活動の場	・児童の活動	○指導上の留意点	☆目指す児童の姿【観点】＜評価方法＞
10月7日 までに	・議題箱に「前期終了の集会がしたい」「クラスでおまつりのようなことがしたい」などの思いが寄せられる。	○事前に議題となる物の例を示したり、どんな学級、学校生活にしたいかを考えるように伝えたりして、意見を入れるよう促しておく。	☆学級生活に関心をもち、よりよい学級生活にしようとしている。 【主体的態度】 ＜観察＞
10月19日 休み時間	・寄せられた議題から議題を選ぶ。	○寄せられた議題の中から教師と一緒に議題を選べるようにする。	☆寄せられた議題案の中から今の学級にふさわしい議題を選んでいる。 【思考・判断・表現】 ＜観察＞
10月20日 休み時間	・司会グループで役割分担を行い、話合いの進め方やめあてを確認する。	○学級会の日時を伝える。 ○今回の学級会では何を大切にして話合いたいかを司会グループのメンバーで確認をする。 ○役割分担を行うとともに、話合いの進め方を確認するよう助言する。	☆話合い活動の準備や進め方を理解している。 【知識・技能】 ＜観察・司会進行シート＞
10月22日 休み時間	・学級会で話し合う議題とめあて、提案者の思いを知らせる教室掲示を作る。	○学級全体の意欲を引き出せるような伝え方ができるようにする。	☆議題に対して関心をもち、話合いの見通しをもっている。 【思考・判断・表現】 ＜観察＞
10月23日 までに	・どのようなことをしたいかを学級会シートに書き、提出する。	○話し合うこと①の「何をするか」について、学級会シートに自分の考えを書くようにする。この時、話合いのめあてを意識できるように声をかける。 ○友達と相談しながら、めあてに近づくようなもの考えるよう助言する。	☆提案理由やめあてに合った自分の考えを記入している。 【思考・判断・表現】 ＜観察・学級会シート＞
10月26日 27日 休み時間	・出された意見を整理しながら、学級会の進め方について最終確認をする。	○一人一人の意見を確認しながら、話合いの流れや時間配分を予想して、司会グループが落ち着いて学級会を運営できるように一緒に準備を進める。 ○全体に伝えて欲しい意見な	☆自分の役割や話合い活動計画について考え、準備をしている。 【思考・判断・表現】 ＜観察＞

		どをチェックしておき、指名できるようにしておく。	
--	--	--------------------------	--

(2) 本時の活動

①ねらい クラスみんなで協力して楽しめるおまつりにしよう。

②活動計画

話合いの順序	○指導上の留意点	☆目指す児童の姿 【観点】＜評価方法＞
1. はじめの言葉	○短冊を活用し、事前に出された意見を整理分担しておく。 ○座席は、コの字型にして、互いの顔を見ながら話合いが行えるようにする。	
2. 司会グループの紹介		
3. 議題の確認 「5年2組のおまつりをしよう。」	○提案者に対して、どのような気持ちで本議題を提案したかを自分の言葉で伝えることができるように事前に指導しておく。	
4. 提案理由の確認		
夏休み中や、学校の中でみんなでやる行事などがなくなったので、みんなが笑顔で思い出に残るイベントがしたいと思ったからです。		
5. 話合いのめあての確認 「クラスみんなで協力して楽しめるおまつりにしよう」		
6. 決まっていることの確認 11月16日(月)5時間目 3つのコーナーを作る	○進め方などでつまづいた時には近くに行ったり、付箋で助言したりする。 ○できるだけ自分たちで決定できるように見守り、話合いが行き詰まってしまった時には助言する。	☆司会グループとして、司会や記録などの役割を果たして話合いを進めている。 【思考・判断・表現】＜観察＞
7. 話合い 話し合うこと① 「何をするか」 話し合うこと② 「楽しむための工夫」		☆友達の考えを認めながら、よりよい解決方法や実践の仕方を考え、話合いに参加している。 【思考・判断・表現】＜観察＞
8. 決まったことの確認		
9. 認め合いタイム		
10. 先生の話		
11. 終わりの言葉	○友達の見解に対して意見や質問をする姿や、発言者に向ける視線やうなずき、相槌をうつ姿を見取り、事後の活動などに生かせるようにする。 ○司会グループや周りの児童の頑張っていた点や、よかった意見、態度を称賛し、意欲をもって実践できるようにする。	

③ 本時の視点

- ・話し合いのめあてを意識して話し合いに参加していたか。
- ・自らが話し合いに参加しているという自覚をもって、話し合いに参加していたか。

第五回 学級会

はじめの言葉

司会グループの紹介

議題「五年二組のおまつりをしよう。」

提案理由

- ・みんなのできる行事の代わりがしたい。
- ・笑顔で思い出に残るおまつりがしたい。

話し合いのめあて

クラスみんなで協力して楽しめるおまつりにしよう。

話し合うこと① 何をするか

話し合うこと② 楽しむための工夫

決まったこと

話し合いのふりかえり

先生から

おわりの言葉

話し合うこと① 何をするか

話し合うこと② 楽しむための工夫

④板書計画

(3) 事後の活動

活動の場	・児童の活動	○指導上の留意点	☆目指す児童の姿【観点】 ＜評価方法＞
10月29日 朝の会	・おまつりのめあてを決める	○学級がよくなるために、何を意識して準備し、実施するかを考えられるようにする。	
10月30日 朝の会	・それぞれのコーナーの担当を決める。	○これまでの経験を生かし、必要な役割を考えて全員で分担できるようにする。	
11月2日～ 休み時間	・役割ごとに準備をする。	○準備の進行状況を確認し、活動意欲が継続するよう声かけをする。	☆役割分担に基づいて協力して準備を進めている。 【思考・判断・表現】＜観察＞
11月13日 学級活動	・おまつりを行う。	○5年2組のおまつりのめあてを提示し、意識できるようにする。 ○実践して良かったことなど、ふり返りに書く時の視点を伝えておく。	☆5年2組のおまつりのめあてを意識して、友達と協力して活動している。 【思考・判断・表現】＜観察＞
11月13日 帰りの会	・ふり返りカードを書く。	○次にどんなことがしたいか、また今回の課題をどのように生かしていきたいかを、中心に考えられるよう助言する。	☆活動に対する自分の取り組み方や学級全体としての実践をふり返り、今後の学級活動への見通しをもって取り組もうとしている。 【主体的態度】 ＜ふり返りカード＞